

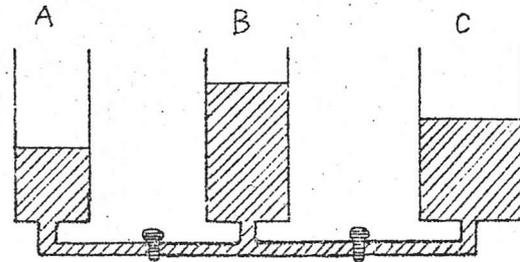
武蔵中学校入学試験問題

(昭和43年度)

43	受験番号
中	

算数 3枚のうち その1

1 図のA, B, Cは垂直に立っている円柱形の器で、下部は管でつながれています。管の途中の2つのコックをとじたままそれぞれに水を入れました。水面の高さは、BはAより12cm高く、CはAより5cm高くなっています。



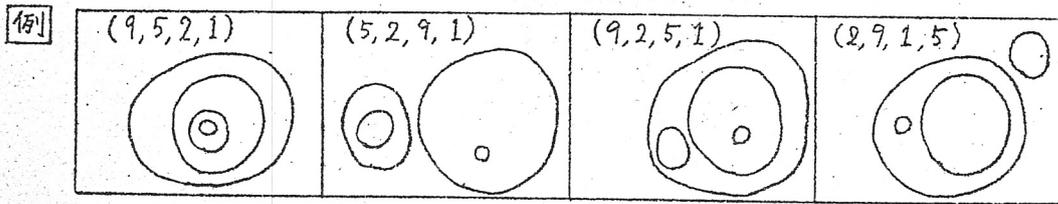
いま、2つのコックをともに開くと、Cの水面は現在よりどれだけ高くなりますか、または低くなりますか。器を水平に切った切り口の面積は、Aは $30\text{cm}^2$ 、Bは $40\text{cm}^2$ 、Cは $60\text{cm}^2$ です。  
(式も書きなさい)

2 お正月にまとめてもらったお年玉をA, B, C 3人の兄弟がつぎのように分けました。Aは全体の $\frac{1}{4}$ より600円多くとり、Bは残りの $\frac{2}{3}$ より300円少なくてとり、その残りをCがとりました。Cの金額は1000円でした。A, Bはそれぞれ何円ずつとりましたか。  
(式も書きなさい)

43	受験番号
中	

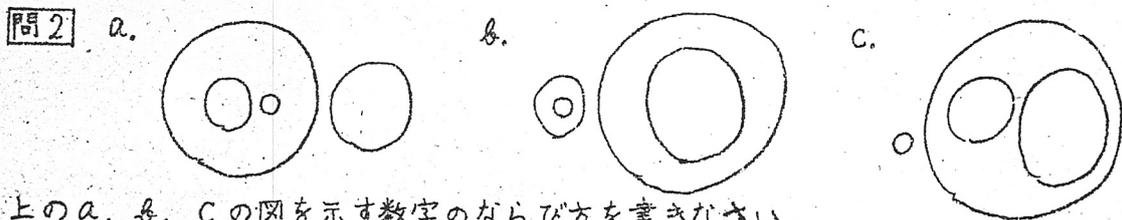
算数 3枚のうち その2

3 半径がそれぞれ  $9\text{cm}$ ,  $5\text{cm}$ ,  $2\text{cm}$ ,  $1\text{cm}$  の4つの円があります。例はどの円がどの円の中にあるか、どの円の外にあるかという関係を 1, 2, 5, 9 の4つの数字のならば方で表わす方法を示したものです。その方法を考え、下の問1, 問2に答えなさい。



問1 a. (1, 2, 5, 9), b. (9, 1, 5, 2), c. (5, 2, 1, 9) が示す図を書きなさい。

a.	b.	c.
答		



上のa, b, cの図を示す数字の並び方を書きなさい。

答

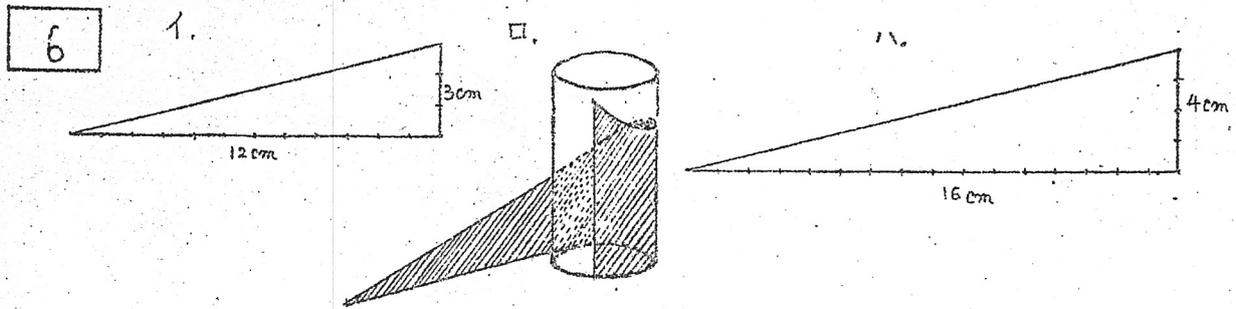
( , , , )	( , , , )	( , , , )
-----------	-----------	-----------

4 太郎君は遊園地でこども自動車にのりました。コースは1周  $1300\text{m}$  で出発点のところに信号があつて、青, 赤, 青, 赤というように変わり、青は15秒, 赤は10秒ついています。信号が赤から青に変わったときに出発して、このコースを5周するのに何分何秒かかりますか。自動車の速さはいつも一定で毎秒  $5\text{m}$  です。(式も書きなさい)

43	受験番号
中	

算数 3枚のうち その3

- 5 一定の速さで走っている列車が860mの長さのトンネルを出ると400mの平地を走り、また860mのトンネルにはいって見えなくなり、やがてトンネルを出て400mの平地を走り、また860mのトンネルにはいり、ということをくり返しています。列車がすっかりトンネルにかくれて見えない時間が36秒つづくと、そのつぎには列車のどこか一部分または全体が見えている時間が27秒つづきます。列車の速さは毎秒何mですか。また列車の長さは何mですか。  
(式も書きなさい)



- (1) 図Iの三角形はたて3cm、よこ12cmの長方形のうすい紙を対角線にそって切つて作ったものです。この紙を図IIIのように底面の円周の長さが6cm、高さが4cm以上の円柱にのりでぴったりとはりながらまきつけていきます。まきおわつたときに2枚重なる部分のどちらにもななめの線をひいて示しなさい。  
答は図Iの中に書き入れなさい。
- (2) つぎに図IIのような紙をまきつけたときはどうなりますか。(1)と同じように3枚重なる部分には~~斜線~~を、2枚重なる部分には~~点線~~をひいて示しなさい。  
答は図IIの中に書き入れなさい。

43	受験番号
中	

理科 4枚のうち その1

1 次の各問の三つのものを( )にきめた順に  の中に記号でかきなさい。

(1) い. 空気 ろ. 水素 は. 二酸化炭素 (同じ体積の重さの大きい方から)

→  →

(2) い. アルミニウム線 ろ. ニクロム線 は. 銅線 (とける温度の高い方から)

→  →

(3) い. 鉄 ろ. 銅 は. せとぎの (熱のつたわりやすい方から)

→  →

(4) い. 水 ろ. 空気 は. 鉄 (その中を音がたつたわる速さの速い方から)

→  →

(5) い. ナイフの刃<sup>は</sup> ろ. 水晶 は. ガラス (固い方から)

→  →

(6) い. トライアングル ろ. ドラム は. トランペット (出す音の高い方から)

→  →

(7) い. 大腸 ろ. 小腸 は. 直腸 (食物が先にとおる方から)

→  →

(8) い. ヤツデ<sup>デ</sup> ろ. サクラ は. ケヤキ (成長したときの高さが高い方から)

→  →

(9) い. ウメ ろ. サクラ は. アジサイ (一月からみて花の咲く時期が早い方から)

→  →

(10) い. 金星 ろ. 火星 は. 土星 (太陽に近い方から)

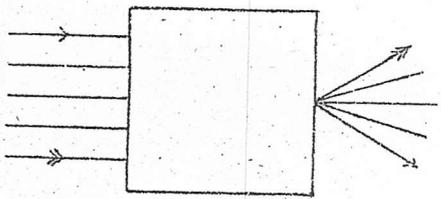
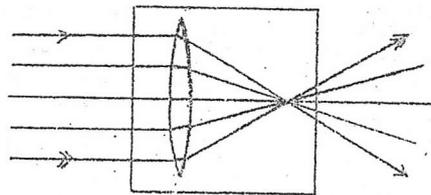
→  →

43	受験番号
中	

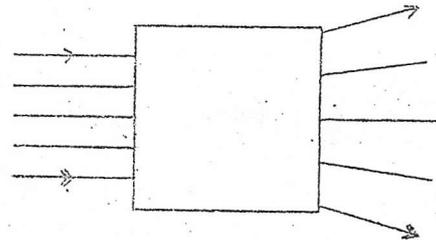
理科 4枚のうち その2

2 次の(1)から(6)までの図に示した矢印は光の進む道すじの初めと終わりの部分だけを示したものです。それぞれの空白の部分に、例にならって、鏡、おうレンズ、および凸レンズのどれか1つ、または2つを組み合わせたものを書き入れて、光の進む道すじを完成させなさい。(いく通りかの答が書ける場合はいずれか1つだけでよい)

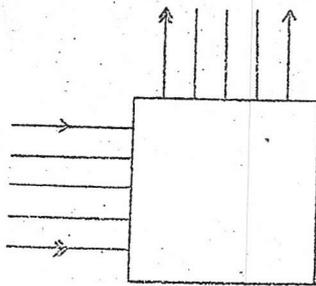
例



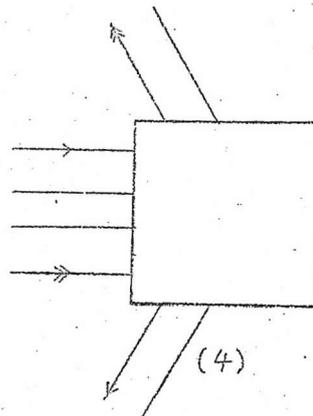
(1)



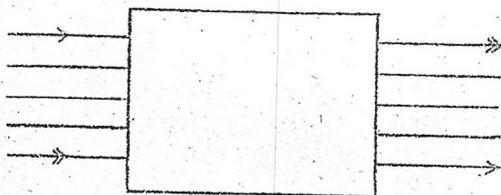
(2)



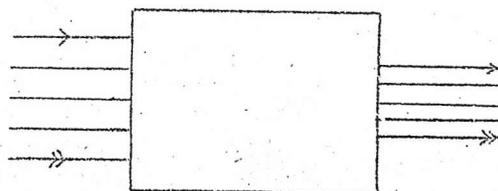
(3)



(4)



(5)



(6)

43	受験番号
中	

理科 4枚のうち その3

3 A 次の事からの理由としてもっともよいと思うもの1つを(1),(2),(3),(4)の中から  
えらび、( )の中へその番号を書き入れなさい。

(イ) 地球はコマのように自転しているが、コマとちがって何千年たってもまわり続けている。  
( )

- (1) 地球のまわりかたはコマよりはよいから。
- (2) まわりが空気であつまれているから。
- (3) 太陽の引力がはたらいているから。
- (4) 真空の中に浮かんだようになっているから。

(ロ) 季節によって夜空の星座がちがう。  
( )

- (1) 地球が自転しているから。
- (2) 地球が太陽のまわりをまわっているから。
- (3) 星の明るさが季節によってちがうから。
- (4) 季節により近づく星がちがうから。

(ハ) 夏のころはおせんべいがじきにやわらかくなってしまふ。  
( )

- (1) とける温度近くまで気温が上がるから。
- (2) 空気中に水分があるから。
- (3) 空気中の水分が多いから。
- (4) 中にある空気のあわがふくれるから。

(ニ) ゴムまりをあたためるとよくはずむ。  
( )

- (1) ゴムがやわらかくなるから。
- (2) ゴムがのびてなかの空気のおす力が小さくなるから。
- (3) なかの空気がぬけて軽くなるから。
- (4) なかの空気のおす力が大きくなるから。

B 高圧線にとまっている鳥が感電しないでいるのはなぜですか。その理由を書きなさい。(5行以内)

-----

-----

-----

-----

-----

43	受験番号
中	

理科 4枚のうち その4

4 ミツバチが色をみわけることができるかどうかを調べるのに、次の順序で実験をしました。よく読んであとの問に答えなさい。

実験1. 巣の近くにテーブルをおき、その上に、同じ大きさ、同じ形、同じ質の青と黄の色紙を1枚ずつ用意し、色紙の上にガラスの皿をおきます。青い紙の上の皿にはさとう水、黄色の紙の上の皿にはただの水をいれおくと、ときどき青と黄の位置を左右おきかえてやっても、ミツバチはいつも青い紙の方に来るようになります。

実験2. 実験1でいつも青に来るようになったら、次には、青と黄の紙だけをおいてミツバチがどちらの色紙にやってくるかを調べます。ミツバチは、この場合にも青い紙にやってきました。

実験3. 実験1と逆に黄色の紙にさとう水をおいて、黄色にいつも来るようになったら、実験2と同じようにします。この場合はミツバチは黄色の紙に集まって青にはゆきません。

実験4. 実験1のようにして、青に来るようになったあと、白から黒までのいろいろな濃さの灰色の紙を青い紙のそばに並べてやると、ミツバチは青い紙だけに集まって、ほかの紙にはゆきませんでした。

実験5. 赤い紙の上でさとう水をもらっていたミツバチで、実験4のように白から黒までのいろいろな濃さの灰色の紙を赤い紙のそばに並べてやると、ミツバチはほとんどは赤ばかりでなく、灰色の紙の1枚にも同じように集まりました。

(1) 実験に使う紙や皿を、同じ大きさ、同じ形、同じ種類のものにするのは何のためでしょう。

(2) 実験1.で左右をいれかえるのは何のためでしょう。

(3) 実験3.まででわかったことと、さらに実験4.をしたことによってわかったことのちがいは何ですか。

(4) 実験5.からどんなことが考えられますか。

社会 4枚のうち その1

1 日本、フランス、アラブ連合、アメリカ合衆国、アルゼンチンの5つの国について、下の問に記号で答えなさい。

(A) 表Iの(あ)~(お)は上にあげた国々の人口の最も多い都市の気候をしめしています。それぞれ、どの国にあてはまりますか。

表I. (気温は摂氏、降水量はミリメートルであらわしてあります。)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年	
あ	気温	12.7	14.0	16.6	20.5	24.7	26.8	26.8	27.7	25.7	23.6	19.7	14.8	21.1
	降水量	3	4	3	1	4	0	0	0	0	1	4	7	25
い	気温	0.9	0.9	4.9	10.7	16.7	21.9	24.9	24.1	20.4	14.8	8.6	2.4	12.6
	降水量	84	78	107	91	91	86	94	129	100	86	91	86	1123
う	気温	23.6	23.3	20.2	17.3	13.7	11.2	10.3	11.4	13.9	16.7	19.7	22.4	17.0
	降水量	92	84	122	87	78	55	42	58	88	100	79	90	975
え	気温	3.1	3.8	7.2	10.3	14.0	17.1	19.0	18.5	15.9	11.1	6.8	4.1	10.9
	降水量	54	43	32	38	52	50	55	62	51	49	50	49	585
お	気温	3.7	4.3	7.6	13.1	17.6	21.1	25.1	26.4	22.8	16.7	11.3	6.1	14.7
	降水量	48	73	101	135	131	182	146	147	217	220	101	61	1563

答のらん	日本	フランス	アラブ連合	アメリカ合衆国	アルゼンチン
------	----	------	-------	---------	--------

(B) 表IIの(あ)~(お)は上にあげた国々の面積・人口をしめしています。それぞれ、どの国にあてはまりますか。

表II.

1965年	面積(万平方キロ)	人口(万人)
あ	936	19457
い	55	4892
う	37	9827
え	100	2960
お	278	2235

答のらん	日本	フランス	アラブ連合	アメリカ合衆国	アルゼンチン
------	----	------	-------	---------	--------

(C) 表IIIの(あ)~(お)は上にあげた国々の国民総生産と、おもな農産物・鉱産物の生産高をしめしています。それぞれ、どの国にあてはまりますか。

表III.

1965年	国民総生産(億円)	米(千トン)	小麦(千トン)	綿花(千トン)	羊毛(千トン)	石炭(千トン)	石油(千トン)
あ	2011000	349	3611	326	12	47528	38495
い	246000	1612	129	—	—	4953	68
う	* 15000	190	160	52	—	—	649
え	58000	17	540	11	18	37	1406
お	338000	10	1427	—	3	5135	299

(\*) (う)の国民総生産は1961年の統計によっています。

答のらん	日本	フランス	アラブ連合	アメリカ合衆国	アルゼンチン
------	----	------	-------	---------	--------

43	受験番号
中	

社会 4枚のうち その2

2. 下のA~Eの文を読んで、次の問に答えなさい。

問1. A~Eの文の\_\_\_\_にあたる部分の時代に、中国では何という国がありましたか。

問2. A~Eの文の〔 〕のなかから、正しい事がらをえらび、記号で答えなさい。

問3. A~Eの文を参考にして、それぞれの文の下の問a~eに答えなさい。

A. 6世紀の終わりごろ、聖徳太子は推古天皇の皇太子になり、摂政として天皇に代わって、政治をとりました。太子の死後、蘇我氏は、〔あ〕物部氏の一族をほろぼしました。〔い〕太子の子孫をほろぼしました。〔う〕鎌足らの力をかりて大化の改新を行ないました。〕

問a. 大化の改新が始まったのは、何年ですか。

B. 1889年、大日本帝国憲法が発布されました。さらにそのつぎの年、政府は、〔あ〕国会の開設をやくそくしました。〔い〕内閣の制度をつくりました。〔う〕第1回の国会を開きました。〕

問b. 日本国憲法の公布は、大日本帝国憲法の発布から、何年後ですか。

C. 後醍醐天皇は、かねてから、天皇中心の政治にかえそうとしていましたが、ついに鎌倉幕府をたおしました。〔あ〕そこでつぎの年に北条泰時が貞永式目をつくりました。〔い〕しかしつぎの年に足利尊氏が幕府を開きました。〔う〕そこでつぎの年に後醍醐天皇が建武の新政を始めました。〕

問c. 京都の室町に幕府を開いたのは、だれですか。

D. 20世紀になると、強国のあいだで、領土や貿易をめぐる対立がはげしくなりました。そして、1914年、ついに戦争が始まりました。5年間も戦った結果、連合国側が同盟国側をやぶり戦争は終わり、〔あ〕ベルサイユ〔い〕サンフランシスコ、〔う〕ポーツマス〕講和条約が結ばれました。

問d. そのころの日本で、はじめて政党内閣ができました。それをつくったのは、だれですか。

E. 藤原氏がもっとも栄えたのは、11世紀の始めごろで、道長・頼通の時でした。そのころの文化には、〔あ〕日本風の文化の美しさがみとめられます。〔い〕大陸文化のえいきようが強くみとめられます。〔う〕武士の気風がよくあらわれています。〕

問e. 藤原頼通が建てた寺は、何という名まえですか。

答のらん

	問1.	問2.		問3.
A.			a.	
B.			b.	
C.			c.	
D.			d.	
E.			e.	

社会 4枚のうち その3

3 下の表は1955年～1965年のわが国の産業や人口の変化を5年おきにしめして  
います。単位がついていないものは1955年の量を100としたわりあいであらわされて  
います。

問I 各表の下に書いてあることばのなかからA～Sにあてはまるものをえらんで記  
号で答えなさい。

(1) 農業

ア. 作物  
イ. 作付面積

作物/年	1955	1960	1965
A	100	140	196
B	100	128	140
C	100	103	101
D	100	87	55

ア. 稲 イ. 麦類 エ. 野菜  
オ. くだもの

カ. 家畜飼育頭数

家畜/年	1955	1960	1965
E	92 <small>万頭</small>	67 <small>万頭</small>	32 <small>万頭</small>
F	82 <small>万頭</small>	191 <small>万頭</small>	397 <small>万頭</small>
G	42 <small>万頭</small>	82 <small>万頭</small>	128 <small>万頭</small>
H	263 <small>万頭</small>	233 <small>万頭</small>	188 <small>万頭</small>

カ. 乳牛 キ. 役肉牛 ク. 豚  
ケ. 馬

(2) 人口

人口/年	1955	1960	1965
I	100	87	72
J	100	97	95
K	100	105	110
L	100	108	133
M	100	121	135

イ. 日本の総人口 コ. 東京都の人口  
カ. 山梨県の人口 キ. 埼玉県の人  
ク. 農林水産業にたずさわる人の数

(3) 鉱業と工業

鉱業/年	1955	1960	1965
N	2 <small>万台</small>	16 <small>万台</small>	69 <small>万台</small>
O	13 <small>万台</small>	357 <small>万台</small>	419 <small>万台</small>
P	46 <small>万台</small>	152 <small>万台</small>	223 <small>万台</small>
Q	100	97	95
R	100	138	148
S	100	240	754

セ. 織物の生産量 タ. 石油の消費量  
チ. 石炭の生産量 ツ. 乗用自動車の製造台数  
テ. 電気せんたく機の製造台数  
ト. テレビの製造台数

答のらん

(1) a.

A	B	C	D

(1) b.

E	F	G	H

(2)

I	J	K	L	M

(3)

N	O	P	Q	R	S

問II 表(2) にあらわされた10年間の人口の動きのいみも説明しなさい。

---



---



---



---

43	受験番号
中	

# 社会 4枚のうち その4

4. 次の1~5の事がらを、それぞれの年代の古いものから順にならべ、記号で答えなさい。また下の図は、(あ)~(と)のどれに関係があるかをしらべ、記号で答えなさい。

1. あ絵巻物 い浮世絵 う水墨画(すみ絵) え動画
2. お東大寺南大門仁王像 か法隆寺釈迦三尊像 き東大寺大仏像 く埴輪男子像
3. け書院造り こ高床式住居 さ寢殿造り し竪穴式住居
4. す農地改革 セ伊能忠敬の測量 そ地租改正 た検地
5. ち守護大名 つ戦国大名 て守護地頭 と外様大名

図 A.

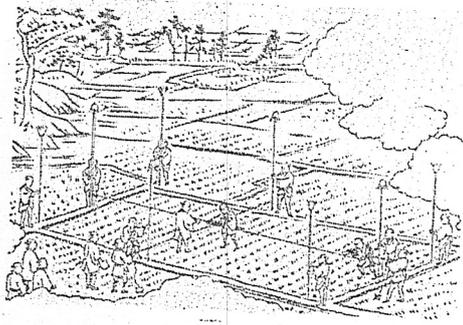


図 D.



図 B.



図 E.



図 C.



答のらん

1.			
2.			
3.			
4.			
5.			

図A.	図B.	図C.	図D.	図E.
-----	-----	-----	-----	-----

一 次の文を読んで、うしろの間に答えなさい。

雪にとざされた北海道の春は、おそくやってきました。まず針葉樹(しんようじゆ)のてっぺんのうす緑のワカメが、あたたかくなってきた日の光にかがやきはじめます。それをあいずに、野や山は雪をはらいおとしはじめ、だんだん緑色にかわってきます。

ここは北海道の沼田町というところから二里半ばかり奥にはいった奔仁(ぼんに)という小さな部落です。なだらかな丘(おか)を背(せ)にしたこの部落は三〇戸の全部がノウカです。明治の中ごろ、遠く四国の愛媛県からイジュウしてきたひとたちが苦勞して開拓(かいたく)した部落で、そのころのことを知っている年よりが何人か生きていて、長い冬の夜など、部落の子どもたちはストーブのまわりにあつまって年よりからそのころの話をきくのでした。

この奔仁の部落にも待ちに待った春がおとずれました。うしろの丘は緑になり、川べりには黄色いタンポポの花が、足のふみばもないほどいっぱい咲きみだれています。この部落に電燈がつくようになったのは、戦後の、ついこのあいだのことで、それ以前にはランプをつかってくらしていたのです。はじめて電燈がついた晩(ばん)には、おとなたちも子どもたちも、あまりのめずらしさにすっかりこうふんしてしまつて、一晚じゆう電燈をながめているうちに、とうとう夜が明けてしまいました。

この部落には、役場も巡査(じゆんさ)の駐在所(ちゆうざいしよ)もありません。お寺も一里半はなれたとなりの村まで行かなければありません。キシヤの駅からは三里ちかくはなれていますし、バスもありません。ですから、年よりのなかにも、おとうさんおかあさんたちのなかにも、わかい人たちのなかにも、まだきしゃにのつたことのないひとがたくさんいます。

こんな不便な奔仁の小学校に、角(かど)先生がやってきたのは、タンポポがいまをさかりと咲きみだれている五月のはじめでした。

角先生は、角三吉というおもしろい名まえの先生です。高等学校をソツギョウしたばかりで、まだ子どものようなわかい先生でした。なんでも「資格は助教だ」ということです。なにしろ、まえにいた安川先生が病氣(びやうき)ということ町へ帰ってから、半年あまりも先生なしで子どもたちはすごしてきたのです。六年生が一年生や二年生を教えました。三年生からは、みまで教えあったり、上級生に教えてもらったりして勉強しました。いちばんこまったのは六年生です。六年生は下級生のめんどうをよくみましたが、さて自分たちの勉強となると、なかまどうしてわからないことがあつても、だれにも教えてもらえません。ですから、角先生がやってきたとき、なんといいっても、いちばんよろこんだのは六年生です。ざっそく、六年生のガキ大将の栄助は、みんなをあつめていいました。

「いいか、六年生はな、いままでだれにも勉強をみてもらえなかったんだからな、こんどの先生には六年生がみんなよりよけい教わるんだ。いいな、みんな。」

「うわあ、ずるいよ、ずるいよ、先生はうちの先生だよ。六年生だけでひとりじめしちゃするよ、ずるいよ。」

四年生のアイコは気のない女の子です。ほおをまっかにして、こういいました。

「そうだ、そうだ。先生はみんなの先生だ。」

「栄助、ずるいぞ。」

「六年生、ずるいぞ。」

六年生の賢太(けんた)はアイコのにいさんです。「ずるいぞ、ずるいぞ。」と、どなっているアイコのそばへくると、アイコの顔の前にげんこつをつきだして、

「アイコ、だまってるノ！」

いやもう、たったひとつの教室がわれんばかりのさわぎになりました。机をとんとんたたく者がいます。いすをカタカタ床(ゆか)にぶつつける者がいます。このとき栄助はいちだん声をはりあげて、

「六年生、ちよつくら、教室のそとに出れノ！」

そういって、栄助が戸口のほうに走りだしたとたん、がらりと戸があいて、角先生がはいてきました。栄助はすんでのことに角先生にぶつかるところでしたが、あやうく立ちどまって、一歩さがると、上目づかいに先生の顔を見上げました。みんな、しんとしずかになりました。

やせてひよろひよろした角先生は、ひとわたりみんなの顔をみわたすと、

「ええ、みなさんといっしょに勉強できますことを、たいへんうれしくおもいます。よろしく……」

と、いって、びよこんと頭をさげると、ぼろっと顔を赤くしました。つぎのしゅんかん、角先生はクルックルッと目をみはって、

「やろうなあ。」

と、ひと声大声でいうと、にやりと笑いました。そして、くるりと背をむけると、すたすたと教室を出て行ってしまいました。みんな、顔を見あわせました。おもわず(うふふ、うふふ)と、みんなの顔がほころびました。みんなはいっぺんに角先生がすきになつてしまったのです。

受験番号

国語

七枚のうち

その三

(昭四三中)

問一 北海道の春は「おそくやってきます」とありますが、いったい北海道の春はなん月ごろにやってくるのでしょうか。また、それは文のどのいうところでわかりますか。その部分を書きぬいて答えなさい。

問二 次の「足のふみばもない」ということばをつかった文を読んで、つかいかたが適当でない文には×をつけなさい。

イ サクラの花が足のふみばもないほどいっぱい咲きみだれている。

ロ キノコが足のふみばもないほどいっぱいはえている。

ハ 雪が足のふみばもないほどいっぱいふった。

問三 「奔仁の小学校」はどんな小学校でしょうか。この文からわかることをできるだけわしく書きなさい。

問四 「いちばんよろこんだのは六年生です」とありますが、なぜ、六年生がいちばんよろこんだのでしょうか。

問五 「みんなの顔がほころびました」とありますが、顔がほころびるとはどういうことですか。また、そうなるまえは、みんなの顔はどうなっていたのでしょうか。

受験番号

国語

七枚のうち

その四

(昭四三中)

問六「みんなはいっぺんに角先生がすきになってしまったのです」とありますが、なぜ「いっぺんに」すきになったのでしょうか。みんなの気持ちを説明しなさい。

問七 文中の……をつけたカタカナを、漢字になおしなさい。

ワカメ	ノウカ	イジュウ	キシヤ	ソツギョウ

二 次の文を読んで、うしろの問に答えなさい。

ある日のこと、いつもの仲よし三人組が一郎君の勉強部屋に集まっていた。一さつの本をかこんで、何やらまじめな顔で議論をしている。どうやらいつものマンガではないらしい。ひとつその本をのぞいてみよう。

ミス夫人は外出先から帰ると、留守中子どもたちがどんなふうにしたかをかみならずたずねました。しかもそれを子どもたちに直接にたずねたのです。夫人にしてみれば、それは子どもたちが自分たちのしたことについて信用できる報告をしてくれるものと信じていたからでした。

「ね。おまえたち、おとなしく留守番したでしようね。」

「おとなしくしていましたわ、おかあさま。」

「さわぎはしませんでしたね。」

「ええちつとも。」

「通りへ出歩きもしませんでしたね。」

「一度もへやから出ませんでしたわ。わたくしは編み物をしていましたし、妹は絵本を見ていました。」

「それは良い子でしたね。はい。おとなしかったごほうびにお菓子を買ってきてあげましたよ。」

子どもたちが散歩に行くと、いつもどこへ行ってきたかと母親はたずねました。そ

りして、子どもたちが、あるきめられたひとつの場所をいいますと、彼女はそれですっかり満足するのです。子どもたちがほんとうのことをいっているかどうかを確かめてみることはせずに、みんないわれるままを信用していたのです。

子どもたちも初めのころはいつもほんとうのことをいいました。しかし、そのうちに、おかあさまに隠したほうが良いと思うことは、ときどきいわないようになりしました。たとえばあるとき、母親の留守のときにさわざきの近所の子どもたちと通りへ出歩きました。子どもたちはおかあさんにしかられはしないかとちょっと心配になりましたが、だからといって別にうそをつくつもりはありませんでした。ところがいちばん年上のねえさんが、「出歩いたことはいり必要ないと思うわ。だって、お菓子がもらえないのですもの。」といました。ほかの子どもたちもこれに動かされて、ねえさんに同意し、「おかあさまにはないしよにしておきましょう。」ということになりました。

母親が「じつといえにいましたか」とたずねたとき、子どもたちはさすがに口ごもってまごまごしました。しかし、やがていちばん上のねえさんが口を開いて、「はい。おかあさま、わたくしたちは門から一步も出ませんでしたわ。」といました。そこで下の子どもたちも口をそろえてそういういました。もちろん母親は子どもたちのおとなしかったことをほめてやりました。しかし子どもたちは、「もしおかあさまがこんなに何でも信じてくれるなら、わたくしたちはもっとすきなことをしてもよいわけだわ。」と考えました。それから、母親が留守になると、彼女たちは大変な脱線を始めました。そうして、母親が帰ってくると、きまって、「よく勉強しておとなしくしていました。」というようになりました。また、「通りでさんざん遊び回ったときでも、母親の気に入ることがわかつている例の場所をあげて、そこにいましたとしかいいませんでした。

年がたつにつれて、子どもたちはますます大胆(だいたん)になり、厚(あつ)かましくなっていきました。そうして気の毒なことには、この善良なおかあさんが、ついにはわが子たちの嘲笑(ちやうしょう)の的となっていました。

(注)嘲笑：：ばかにしてわらうこと。

なるほどこれは三人組にも大いに関係のありそうな話である。では、こんどは三人の話を書いてみよう。

一郎「とにかくこれは子どもたちが悪いよ。このおかあさんは自分の子どもたちをあたまから信用してるんだから。それをうらぎるなんて……」

清 「そうかな。このおかあさん、ほんとうに子どもを信用しているのかな。」

(イ) 一郎 「どうして。君はそう思わないの。だってこのところこ<sup>1</sup>う書いてあるじゃないか。」

正夫 「そうだよ。このおかあさんは子どもを絶対に信じているんだよ。」

清 「でもねえ。ほんとうに信じているんなら、どうしていちいち子どもに何やったか聞くの。へんだよ。」

一郎・正夫 「うーん、そうかな。」

清 「ほくはなんだかこのおかあさんはほんとうは自分の子を信じていないんじゃないかと思うな。」

一郎 「なるほどね。：：：そういえば、良い子だったことを確かめてから、ごほうびにお菓子をあげる、なんてのも子どもを信じてないからかな。」

清 「そう。そうなんだよ。だからほくはこのおかあさんがいけないんだと思うな。ほんとうは子どもを信じていないくせに信じたふりをして、おまけにごほうびなんかやるからいけないんだよ。」

正夫 「そうかなあ。でもほくは、なんだかこのおかあさんはやっぱり子どもを信用しているような気がするんだけど：：：。」

清 「どうして。」

正夫 「どうしてっていわれても、うまく説明できないけど：：：。それにね、子どもたちが平気でうそをつくようになった理由は、ごほうびのお菓子のことだけじゃないかと思うんだ。」

一郎 「それじゃ、何が理由だと思うの。」

(ロ) 正夫 「よくわかんないんだけど：：：。こ<sup>1</sup>こにこう書いてあるだろ。だから、なんていうのかな：：：、とにかくおかあさんが子どもを信じすぎたことが理由だと思うな。」

一郎 「そりゃへんだよ。君のりくつだと、人を信じちゃいけないってことになっちゃるじゃないか。そんなばかなことってあるかい。」

清 「そうだよ。このおかあさんはもっと子どもを信じなけりゃいけなかったんだよ。信じちゃいけないなんて：：：。」

正夫 「そういわれるとこまっちゃうんだけどな：：：。でも、世の中には信じていいこととわるいこととあるんじゃないのかな。」

一郎 「そんなばかな。とにかく悪いのは子どもたちだよ、絶対に：：：。」

清 「いや、そうじゃなくてね：：：。」

三人の話はまだまだつづきそうである。君たちはどう思う。

受験番号

国語

七枚のうち

その七

(昭四三中)

問一 三人の会話の中のイロの発言で、――線をつけた「ここ」は、それぞれ本の文章の中のどの部分をさしているでしょうか。その部分を書きぬきなさい。

(イ)

(ロ)

問二 スミス夫人の子どもたちがうそをつくようになったことについて、三人はそれぞれどのように考えていますか。三人の考えを、この会話からわかるはんにできるだけ詳しく書きなさい。

一郎の考え……

清の考え……

正夫の考え……

問三 (ノ) 三人の考えの中で、本の筆者のいうところをもっともよく読みとっているのはだれの考えですか。

だれの考えですか。

答 ( )

(2) また、本の筆者の意見からはなれて自分の考えを主張しているのはだれですか。

答 ( )